福岡工業大学 学術機関リポジトリ

福岡工業大学 学生FD FIT-joinの活動報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福岡工業大学教育開発推進機構 公開日: 2024-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小原 朋子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/11478/0002000113

福岡工業大学　学生 FD　FIT-join の活動報告

小　原　朋　子（教育開発推進室）

Key words: *学生 FD，学生参画，学びのコミュニティ*

1.　はじめに

近年，高等教育機関においてはグランドデザイン答申 [1)]を起点に学修者本位の教育への転換が進められており，学生主体の取り組みが注目されている。本学においても,「学生が授業を構成する一方の当事者として授業改善に参画するシステムを構築する」ことを目的に，2016 年に学生 FD（以下，FIT-join）を立ち上げた。

FIT-join は，本学の授業改善を教員・職員・学生の三位一体で改善･向上させようとする取り組み，およびそれに関わる活動に参画し，本学の授業改善を学生の視点から教職員と一緒に考え，教職員と学生を“つなぐ”活動によって本学での「学びのコミュニティづくり」の役割を担っている。学生の本音を吸収し，学生が感じていることを教職員に伝え，また教職員が考えていることや課題を学生の視点から考え，それを学生に伝える存在として活動することで大学の教育改善に参画することを目的としている。筆者は，本学における学生 FD の立ち上げから運営を担当し，学生，教職員と共に活動内容を企画し，アップデートを行いながら，次の活動への改善を進めている。本稿では，2023 年度の活動内容と事後アンケートの結果について報告したい。

2.　2023 年度の取組概要

2. 1　構成員

FIT-join メンバーは自主的に参加を希望した学生で構成され，2023 年度は 1 年生 15 名，2 年生 3 名，3 年生 9 名，4 年生 6 名，大学院生 1 名の計 34 名で活動した。メンバーの内訳は表 1 の通りである。

表 1　FIT-join 構成員

所属学科／学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
電子情報工学科	0	0	1	0
生命環境化学科	0	1	0	0
知能機械工学科	1	1	2	4
電気工学科	1	0	3	0
情報工学科	8	0	0	1
情報通信工学科	0	0	0	0
情報システム工学科	0	0	0	0
システムマネジメント学科	0	0	0	0
社会環境学科	0	1	1	1
情報通信工学専攻	1	0	－	－

2. 2　活動の目標

FIT-join は年度の初めに，教育開発推進会議で年間の活動目標を発表し，学部長等からのフィードバックを得て活動を行っている。

2022 年度の振り返りでは「イベントへの参加者が少ない」,「FIT-join の認知度が低い」との課題が挙がったため，2023 年度は「FIT-join が企画する学びに関するイベントへの参加者を増やす」ことを目標に掲げ，そのために SNS 等広報を活用しながら FIT-join の活動に興味を持ってもらうことで活動への一般学生の参加者を増やすこととした。成果指標として，大学生活における満足度や課題について学生の声を拾う学生アンケートの回答数が 2022 年度 533 件であったため，今年度は学生数の約 3 割である 1485 件とした。年間の活動スケジュールを表 2 に示す。

表 2 の活動は表 3 に示すようにプロジェクトごとにチームを作り，各活動の進捗を月 1 回の定例

ミーティングで報告し，必要に応じて全メンバーでディスカッションする機会を設けている。また，ミーティングに参加できなかった場合も内容を把握できるようにメンバーが議事録を作成し，Teams 上で可視化，共有している。

表 2　年間の活動スケジュール

4 月	新入生オリエンテーションの企画・運営 第 2 回「Join-Talks」開催
5 月	キックオフミーティング
6 月	活動計画発表および委嘱状交付
7 月	学生アンケート
8 月	学生プレゼンテーション企画
9 月	教職員と FIT-join との懇談会（FD Café）開催
10 月	教員インタビュー実施 FIT 学生団体サミット 第 3 回「Join-Talks」開催 学生プレゼン企画実施
11 月	学生プレゼン企画実施
12 月	教職員と FIT-join との懇談会（FD Café）開催 学生プレゼン企画実施
1 月	学生プレゼン企画実施
2 月	広報誌「Future Design」発行
3 月	年間活動報告 学生プレゼン企画実施

表 3　プロジェクトチーム

項目	プロジェクトチーム
学生の意見を教職員に伝える活動	学生アンケート ＆ FD Café
教員の想いを学生に伝える活動	教員インタビュー
学生の学びを深める活動	Join-Talks 企画・運営
	学生プレゼンテーション企画
学生同士の学びのコミュニティづくりに係る活動	新入生オリエンテーションの企画・運営
	学生団体連携事業
広報活動	Future Design 作成
	立花祭
	インスタグラム

2. 3　活動紹介

以下に，年間の活動の一部を紹介する。

2. 3. 1　学生の意見を教職員に伝える活動

FIT-join が全学生により良いキャンパスライフを送るために，授業や大学生活に対して抱いている不安や改善して欲しい点についてアンケートを行い，結果を分析し，教員との意見交換の場で学生の声を伝えている。2023 年度は大学生活の満足度やより良く学ぶために何が必要なのか，学生が大学で何を身に付けたいと考えているのかなどについてアンケートを実施し，結果から見える本学の課題とその解決策や教職員への提案を行った。また，取組みの中で，一般の学生がアンケートに回答してくれるような工夫を取り入れ回答率アップをねらった。その結果を基に，教職員と FIT-join との FD Café で「大学で身につける力について考えよう！」をテーマに，意見交換を実施し，学生が大学で身につけたいと考えている力は何か，それを身につけるために何が必要なのかを議論した。参加した FIT-join メンバーは,「学生アンケートの企画を通して，多くの学生がリーダーシップ力やコミュニケーション力を身に付けたいと考えていることがわかった」,「アンケートに協力的な学生

が多いことにありがたいと思った」,「チームで活動する中で自分の役割をこなすことでチームに貢献する達成感を得られることができた」,「FD Café に参加して教職員の方々と話し合う事で，様々な立場の方の意見を知ることができ，また，自分の意見を発表する力が身についた」とのコメントがあった。

図 1　FD Café の様子

2. 3. 2　教員の想いを学生に伝える活動

教員の教育への考え方や学生への想いを学生に届けることを目的に教員インタビューを実施し，内容を記事にして発信をしている。2023 年度は，新たに学長，副学長に就任した 3 名の先生方に，「学長，副学長の仕事について」,「今後，福工大をどのようにしていきたいか」,「座右の銘は」,「学生へのメッセージ」等についてインタビューを行った，参加したメンバーの気づきを含めて，広報誌「Future Design Vol.7」[2)]に掲載している。参加した FIT-join メンバーは,「普段，ゆっくり話す機会のない学長，副学長と話すことで，先生方の存在をより身近に感じることができた」,「先生方の研究や教育への想いを聞いて，自分達も学びに対して前向きに取り組んでいきたいと思った」とのコメントがあった。

図 2　教員インタビューの様子

2. 3. 3　学生の学びを深める活動

学生の学びを深める活動として Join-Talks を実施している。Join-Talks とはアメリカで行われている TED（Technology Entertaiment Design）を参考にして，発表者が持つ知識，経験，興味関心があることをテーマにスピーチを行い,参加者が 専門の学問だけでなく他分野に視野を広げることの大切さや面白さを知ってもらうことを目的として企画，実施している。2023 年度は 2 回開催し，いずれも学生アンケートで学生のうちに知っておきたいことについて回答が多かったテーマを基に開催した。1 回目は「在学中に知っておくべきお金の話」をテーマとし，主に金融リテラシーや将来に向けた資産形成，知らないと損するクレジットカードの使い方などを西日本新聞社生活の窓口事業相談員の方からお話し頂いた。2 回目は,「現代栄養学の視点から私達は何を食べないといけないのか」をテーマに，食について，栄養学の観点から九州大学の教授にお話し頂いた。

参加した FIT-join メンバーは,「イベントに人を呼ぶ難しさを感じた」,「企画を一から考えるのは大変だが，準備から当日までやり切ることの大切さと楽しさを学んだ」とのコメントがあった。

また，別の活動として 2023 年度から，学生同士の学び合いの一環で，各自が学生生活を通してどのような成長を遂げたのかについて定例ミーティングの中でプレゼンテーションを行っている。発

表を通して，大学でどのような学びができるのかをメンバー同士で共有し，互いの成長に繋げている。

2.3.4　学生同士の学びのコミュニティづくりに係る活動

FIT-join は，新入生オリエンテーションのプログラムの一つとして「友達作りの取組」を企画担当している。この企画は新入生が大学生活をスムーズにスタートできるように，コミュニケーションゲームを通して初対面の学生同士の緊張を解きほぐすことを目的としている。2023 年度は学内の施設を知ってもらうために学内探検を取り入れた。新入生が大学生活で行動を共にする仲間とのコミュニティ構築の第一歩と位置付けている。

また，2023 年度から，学生の発案で学内の学生団体が連携する学生団体連携事業を立ち上げた。この事業では，各団体の活動内容を共有し，よりスムーズな連携，協力に繋げること，団体間での連携強化を図ることで，お互いの活動の活性化に繋げること，学生団体の運営に関するテーマをより深く議論することで団体に所属する全ての人が充実した活動ができる環境を整えることを目的とした。その活動の一環で「FIT 学生団体サミット」を開催し，学生自治会，FIT 隊，GSL，FIT-join の 4 団体が参加し，各団体の活動紹介やアイスブレイクなどを通し，お互いの団体についての理解を深めた。ワークショップでは「組織運営を効率よく引き継ぐには」,「メンバー内での良好な人間関係作り」,「メンバーによって活動のモチベーションに温度差がある」という 3 つのテーマから，特性要因図を用いた課題解決ワークショップを行った。FIT 学生団体サミット後のアンケートでは，「沢山の人が集まれば，それだけ多くのバックグラウンドがあり，多種多様な意見が出ることを改めて実感した。」,「他団体との関わりはとても重要であることを知り，今後連携や交流の機会が増えていけばいいと思った。」などの回答があった。参加している学生の様子から，各団体における活動の目的はそれぞれであるが，大学のために，自分の成長のために活動していることは共通しており，参加した学生が所属団体の中での自分の役割を把握し，各自できることに取り組んでいることが筆者も改めて認識できた。

図 3　FIT 学生団体サミットの様子

3.　活動の振り返り（事後アンケート）

年間を通して，表 3 に示す 9 つのプロジェクトを実施した。2023 年度の目標に対する成果指標に掲げた学生アンケートの回答数は 634 件となり，2022 年度は超えたものの目標値は達成できなかった。Join-Talks に関しては，2022 年度実施した第 1 回の参加者が 12 名だったのに対し，2 回目 31 名，3 回目 34 名と増加がみられた。SNS のインスタグラムのフォロワー数の増加もあり，参加者の増加にはつながったが，全学的な参画にはより一層の工夫が必要である。

FIT-join メンバー各自の一年間の活動の振り返りとして，アンケートを実施し，17 名が回答した。アンケートの設問を表 4 に示す。

表 4　活動の振り返りアンケート

設問	内容
1	活動において自主的かつ意欲をもって取り組むことができましたか。 1.　十分に取り組んだ 2.　ある程度取り組んだ 3.　あまり取り組めなかった 4.　全く取り組めなかった

2	特に力を入れた活動を選択ください。(複数回答可)
3	2. で回答した活動を通して学んだこと（できるようになったこと）を記入してください。
4	FIT-join の活動で成長させたいと考えていた『力』は何ですか？当てはまるものを 3 つまで選んでください。 1. 課題解決力：科学技術，情報及び知識を活用して社会の要求を解決するデザイン能力 2. コミュニケーション:論理的な記述，口頭発表，討議等のコミュニケーション能力 3. 主体性：自主的，継続的に学習する能力 4. 実行性：与えられた制約の中で計画的に仕事を進め，まとめる能力 5. 協働性：チームで仕事をするための能力
5	FIT-join の活動を通じて実際に伸ばすことができたと実感している『力』は何ですか。当てはまるものを 3 つまで選んでください。 1. 課題解決力：科学技術，情報及び知識を活用して社会の要求を解決するデザイン能力 2. コミュニケーション:論理的な記述，口頭発表，討議等のコミュニケーション能力 3. 主体性：自主的，継続的に学習する能力 4. 実行性：与えられた制約の中で計画的に仕事を進め，まとめる能力 5. 協働性：チームで仕事をするための能力
6	5. で自身の成長について，そのように回答した理由をお聞かせください。
7	FIT-join の活動経験や，活動を通じて身につけることのできた能力について，正課・課外活動や就職活動，さらに卒業後の社会人生活の様々な場面でアウトプット（発揮）できると思いますか。一番近い項目を選択してください。
8	7. でそのように回答した理由をお聞かせください。

図 4 に，設問番号 1 に対する回答結果を示す。

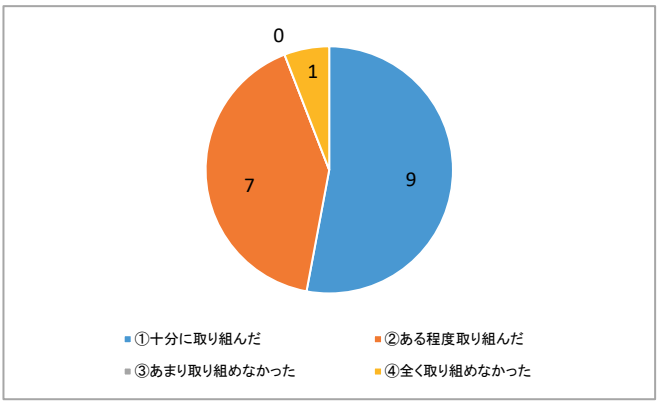

図 4　活動の振り返りアンケート
設問番号 1 に対する回答結果

ほとんどのメンバーが活動に対して,「①十分に取り組んだ」,「②ある程度取り組んだ」と回答しているが，一名ほど「④全く取り組めなかった」と回答しており，理由としては就職活動に力を入れていたからと回答している。

図 5 に，設問番号 2 に対する回答結果を示す。

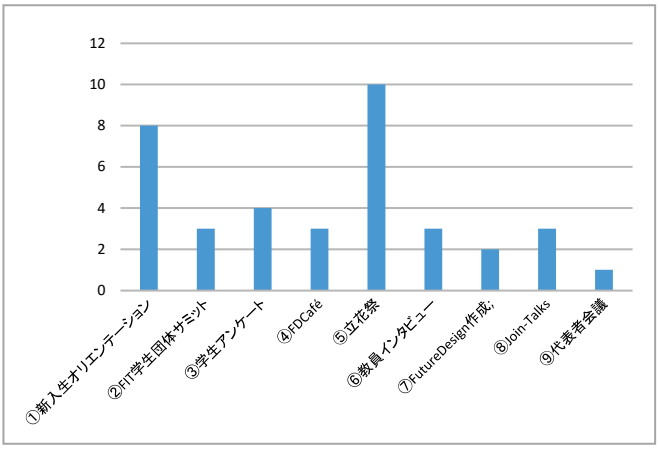

図 5　活動の振り返りアンケート
設問番号 2 に対する回答結果

FIT-join メンバーは，各プロジェクトの中から参加する活動を選択し，メンバーによっては複数のプロジェクトに関わっている。回答数が多かった「①新入生オリエンテーション」と「⑤立花祭」については比較的他の活動より長い期間（3～4 か

月）かけて企画に取り組み，当日の運営も数日かけて行っているため，このような結果が得られたと考えられる。

表 5 に，設問番号 3 に対する回答結果を示す。

結果からは，各活動を通して，「人に自分の考えを伝える力」，「チームで協力する力」，「計画的に物事を進める力」を学んだとの回答が見られた。また，先輩から後輩への引継ぎについても言及されており，縦のつながりが活動の継続に有意な影響を与えていることが確認された。

表 5　活動の振り返りアンケート
設問番号 3 に対する回答結果（抜粋）

企画を実行するための準備や企画の内容を伝えることができるようになった。
考えをまとめ，伝える能力
会議など MT で自分から意見を言ったりできるようになった
周りの人を巻き込んで仕事を進めることができるようになった。
活動を行う中で他者とのコミュニケーション能力が向上できたと思う
インタビューを適切にまとめる力
リーダーとして，みんなの意見をまとめることや決断しないといけないことが大変なことを知った。先輩方が沢山助けてくれたから，自分が先輩になったら後輩のことを助けるようにする。
リーダーに与えられた仕事をこなすことでチームに貢献する達成感を得られることが出来た。立花祭では，金銭の管理を行うことで，責任感の大切さを学んだ。 FD cafe では，教職員の方々と対等に話し合う事で，自分の意見を発表する力が身についた。
期日を考慮して予定を立てること。
普段一緒に活動している人だけでなく，違う団体の人とのコミュニケーションの取り方を学ぶことが出来て良かった。
過去の資料や先輩たちの経験のおかげで学生アンケートや教員インタビューなどが成功したと思うので、記録を残すことの大切さを学んだ。
プレゼンで，準備をしっかりしておく事の大切さを知った。
どのような問題が出てきそうかを前もって考え，対策や準備をすることが成長できたと思う。
人前で話す力
前に立って話す力がより身についた。
たくさんの人と議論でき，イベントの進め方などの流れを知り，経験することができた。
後輩に企画の流れや考え方などを教えながら，進めることができた。

設問 4 と 5 に関しては，課外活動である FIT-join の活動を通して，本学が伸ばしてほしいと思う項目を現在の DP の中から，抜粋して取組に対する学生の成長を検証した。図 6 と図 7 に設問 4 と設問 5 に対する結果を示す。

図 6 と図 7 より，FIT-join メンバーは活動の中で，特に協働性「チームで仕事をするための能力」を伸ばすことができたと実感しており，各プロジェクトをチームメンバーと協力して取り組むようにしたことが，大きく影響したと考えられる。

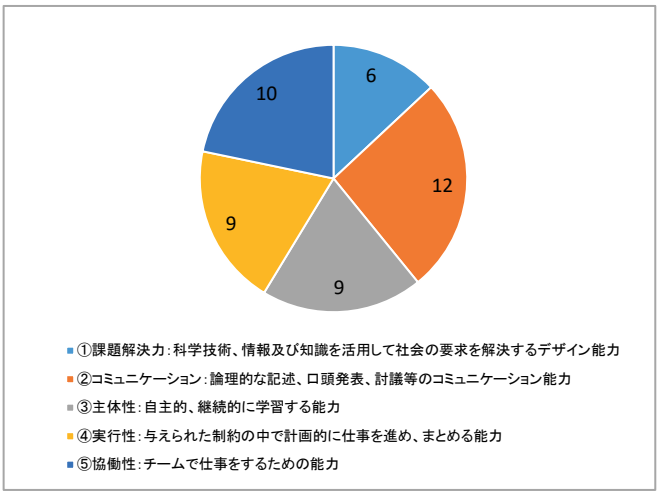

図 6　活動の振り返りアンケート
設問番号 4 に対する回答結果

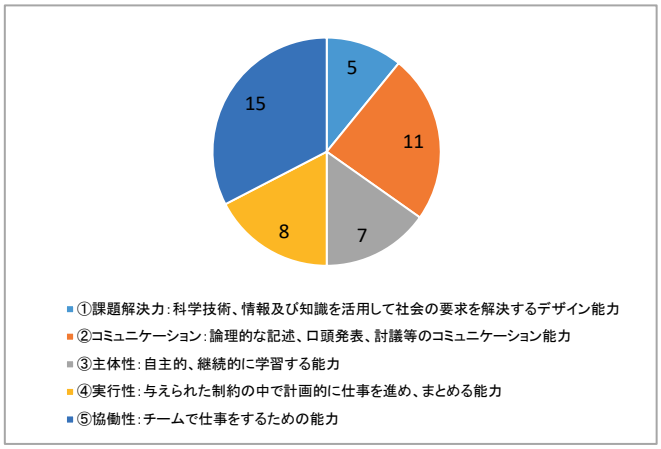

図 7　活動の振り返りアンケート
設問番号 5 に対する回答結果

また，協働性を伸ばすことができたと実感している学生のうち，図 8 で示した設問 7 の「卒業後の社会人生活の様々な場面でアウトプット(発揮)できると思いますか。」という設問に全員が「発揮できると思う」,「ある程度発揮できると思う」と回答している。各取組をチームで取り組むことで，協働性やコミュニケーション力などの汎用的能力の育成につながっていると考えられる。これらの結果から，授業改善という目的の活動に参画することによって，FIT-join メンバーは自分たちの学びの環境における課題を見つけ，解決するための方法を学生同士で協働することが自らの成長につながり，それが将来につながっていることを実感できていることがわかった。また，表 6 と表 7 のコメントからも課題解決力，コミュニケーション力，協働する力の大切さを理解し，学生が学部学科学年を超えて物事に取り組む機会を望んでいることがうかがえた。

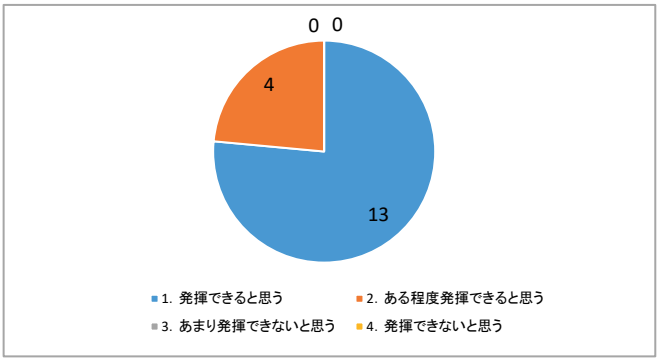

図 8　活動の振り返りアンケート
設問番号 7 に対する回答結果

表 6 と表 7 では設問 6 と設問 8 の回答の理由について紹介する。

表 6　活動の振りかえりアンケート
設問番号 6 に対する回答結果（抜粋）

チームで物事に取り組む力がついたと思うから。
自ら何をしようとか，計画立てたことを実際に行うことができたから。
実行性は，なにかのプロジェクトにおいて，こうしようなど決まったことをすることが出来たから。
チームでのプロジェクトが多く，協働性は自然に身についたと思う。
いくつかのプロジェクトリーダーとして共同作業などで色々な経験を積むことができたから。
どの仕事も，他のメンバーと協力して進めて行くし自主的に仕事をして行くのでそこは成長出来たと思う。
MT などの機会に人前で発表することができたので，少しずつではあるが人前で話す時に余裕がでてきたのを授業の際に感じることができた。

表 7　活動の振り返りアンケート
設問番号 8 に対する回答結果（抜粋）

色々な人と関わりながら，目標に向かって活動することは実践に近いことだと思う。
その場に応じたコミュニケーションがとれるようになったことや自分の意見を伝えることができること，改善策を考える力などが向上できたと思ったから。
どういった業種に就いても,「現状からよりよくする」ということは必要になってくると思う。そういったときに課題解決力や協働性が発揮されると感じたため。
社会に出る上で話し合いの場は必ずあり，それにおいて必要なコミュニケーション能力が向上することでその能力をより活かせると思うため。
人間性や，主体的に動くなど社会に出て必要な部分を鍛えられるところだと思っているから。
色んな立場の人のことを考えて企画を考えることが多かったから。
FIT-join ではイベントを行って，その後の反省もしっかり次回につなげようとしているため，その振り返りの仕方は社会に出てもどこでも役立つと思った。

図 9　2023 年度 FIT-join メンバー集合写真

4.　今後の課題

本報告は学生 FD FIT-join の活動について紹介してきた。取組全体としては，授業を構成する一方の当事者として授業改善に参画することを目的に活動をスタートさせ，教職員のサポートの元，様々な活動が実施でき，その活動を通して学生同士の「学びのコミュニティづくり」も少しずつ実現できていると感じている。一方で，イベントを開催しても参加をしない，大学生活に積極的でない一般の学生をいかに巻き込んでいくかについては引き続き課題である。

FIT-join メンバーについては，参加の目的が大学や後輩のため，自身の成長のためにとしている学生が多く，比較的主体性がある学生が多いが，活動を通して大学で学ぶことの意味をより自分事ととらえ，より良い学びの場を創るために仲間と考える機会や人前で発表する場を複数回設けることで，FIT-join メンバー自身の成長するきっかけとなり，活動の活性化につながっていると感じている。次年度は学生の主体性の源について FIT-join メンバーと議論を続ける予定である。

5.　まとめ

FIT-join の活動を通して，大学教育に学生の声を反映させることはもちろん，学生が自分たちの学びに真摯に向き合い，より良い学生生活について自ら考え，仲間と協力して解決に向けて取組む過程が学生自身の成長につながる一助となることを期待している。取組を始めた当初は教職員の関与が大きかったが，発足から数年が経ち，学生は自分達で課題を解決するための企画を考え，運営し，振り返りをして次に活かすという流れを自主的に実施しており，自走する組織となってきたと感じている。今後は，大学全体の教育改善に参画できるよう学び合いの機会を増やしつつ，学修者本位の教育の発展に向けて取組の質の向上を目指していく予定である。

6.　謝辞

本取り組みを実施するにあたり，多くの教職員のご協力を頂きました。学生 FD の立ち上げから関わって下さった工学部長の松尾敬二教授，2023

年度 FD Café のファシリテーターを務めて頂いた山澤一誠教務部長，土屋麻衣子教授，教員インタビューにご協力いただいた村山理一学長，倪宝栄副学長，前田洋副学長に感謝の意を表します。また，活動に関して助言や協力してくださっている多くの教職員の皆様に心から感謝いたします。

7. 参考文献

1) 2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第 211 号）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm

2) Future Design Vol.7
https://oped.fit.ac.jp/assets/pdf/effort/student/FutureDesign_7.pdf